

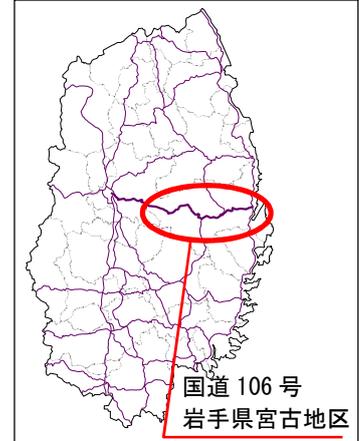
国道 106 号宮古地区道路技術検討会（第 3 回）の概要

1 日時、場所、議事

日時：令和 3 年 2 月 24 日（水）

場所：岩手県水産会館 大会議室

議事：(1) 防災機能の強化に向けたルート^{はこいし たつそべ}の精査
(2) 技術的課題と対応策の検討結果



2 出席者(委員)

南 正昭	岩手大学理工学部教授
井良沢 道也	岩手大学農学部教授
高松 昭浩	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所所長
田中 隆司	岩手県県土整備部道路都市担当技監 (岩手県県土整備部 菅原道路建設課総括課長代理出席)
君成田 忠伸	岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター所長

※ 東北大学大学院工学研究科 京谷教授は欠席

3 結果(要旨)

1) 昨年度検討した箱石^{はこいし}～達曾部^{たつそべ}のルートに対して、下記の検討内容を踏まえ、変更したルートで了承を得た。

- ① 浸水リスク低減に向けたルート精査
- ② 長大切土法面による土砂災害リスク低減に向けたルート精査

なお、避難路や緊急退出路等の防災機能を強化する内容は引き続き検討を進めるよう意見をいただいた。

2) 地質調査(継続)の結果を報告

- ・ 2 地区(夏屋^{なつや}地区、下達曾部^{しもたつそべ}地区)における地質調査結果を報告

3) 地質調査結果を踏まえ、抽出した技術的課題(2項目)について、了承を得た。

- ① 不連続で割れ目の多い混在岩をトンネルで通過
- ② 湧水を伴う破碎帯をトンネルで通過

4) 技術的課題に対する対応策(案)について、剥離性の強い混在岩で岩塊の抜け落ちや湧水等による地山の変化に対して、施工状況に応じた迅速な技術的判断や高度な技術力の活用及び柔軟な施工対応が必要不可欠であることを確認した。

- ① 前方探査及び適切なモニタリングによる前方地質の状況把握
- ② 詳細な事前調査と類似例、近傍の実績に基づく設計・工法選定
- ③ 切羽状況に応じた、複数の補助工法の組合せた施工方法の検討

なお、湧水調査については季節変動等も含め、継続的な調査が有効であると助言をいただいた。